

(のだのこども園)

【公開保育実施日】

2025（令和7）年 2 月 18 日 10：00～11：00

【評価者】 木村 歩 先生（保育環境研究家）

【参加者】 滝口 優 （学校法人加藤学園 のだのこども園 園長）

【内容】 0 歳児から 5 歳児までの保育を観察し、「保育内容」、「保育環境」、「園児の様子」、「保育者の姿勢」について評価するものである。「のだのこども園」は開園して約 6 年を迎えることになった。これまでに改善・成長した点や改善点などを評価するものである。

【評価の観点について】

「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をはじめ、「幼児期にふさわしい生活の展開」、「遊びを通しての総合的な保育」、「ひとりひとりの発達特性に応じた指導」、「主体的に活動できるような環境構成」、「指導計画」等について総合的に評価する。

(2025 年 2 月 18 日 評価者：木村 歩先生)

○保育環境について

(室内)

年齢があがるごとに「くらし感」がでていきます。

一見、多くの物が出されているように見える保育室内ですが、よく観察すると子どもがそこで確かに何かをしている痕跡であるという認識を持ちました。職人がなにかをつくり上げていく時、周辺は道具や素材の端材などであふれています。しかし、作品が出来上がれば、その場は元の平穏さを取り戻します。保育室内も、子どもたちの作品が出来上がれば材料などは整えられ、そこがまた次のワークスペースへと変わり、子どもたちの興味関心に応じて変化するものでした。

特に乳児の暮らす保育室内においては、絵本コーナーや汽車コーナーなど、教材の配置について工夫を要するところがあると感じました。乳児たちの育つ環境については、こどもたちがその場でどんな思いでどんなことをやりたいのか、どうしてその行為をしたいのかに思いを寄せ、スケール感や素材、道具などを準備し、どう配置するか検討していくとより良い環境になるのではないのでしょうか。子どもが一息つける場所があるとよりよいと感じました。安全面を考え、見通しが良いように、という配慮からかもしれませんが、他者と目を合わせないでほっとできるような空間があると、そこで心を整

え、また、みんなの前に出ていくことができます。また、2・3人で語らえるスペースもあちらこちらに配するとよいかもしれません。

（園庭）

緑が魅力的です。また土質もよく、子どもの育ちに必要な「木・火・土・金・水」という素材を 存分に触れられる環境です。隣接されている幼稚園の建て替えもあり、今後、整備が進むと思いますが、この利点 を最大限活用してほしいと思います。 0歳から 6歳までが暮らしてかわりあえるということも園の魅力を最大限生かすため、物的・空間的な環境を今後どう整えていくか、議論の花が咲くことに期待します。

【評価を受けての園としての自己評価（改善策など）】

2024年度に取り組んだことが、人的環境と物的環境の充実である。両環境共に「暮らし」を意識し、職員の価値観を合わせているところである。

thanka こども園の目指す暮らしとは、一人一人あたたかな心を持ち、人権等に配慮された関わりを行う人的環境と、日々を穏やかに過ごし、丁寧に日々のこと、季節のことを大切にすることである。加えて **SDGs** に代表される、これからの未来を考えた上での基本的な生活習慣や遊びを取り入れている。

今回の木村先生の評価を受けて、目指しているところの一端は感じていただけたことを嬉しく思うと共に、ご指摘いただいている保育室の環境や園庭の環境を職員や保護者の皆様、地域の方々とつくりあげていくことを目標としたい。まずは私たちが良いと思う、「thanka こども園の暮らし」を考えて、それが今後の未来(未来の子どもたちが暮らす地域、日本、地球)に繋がっていくことを願い、保育実践に落とし込んでいきたい。